

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02836

研究課題名(和文)日本語学習者を対象とする文語文e-learning教材および文語文教授法の開発

研究課題名(英文)Development of E-learning Materials and Teaching Method of Classical Japanese for Non-native Learners

研究代表者

佐藤 勢紀子(SATO, SEKIKO)

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・名誉教授

研究者番号：20205925

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本語学習者を対象とする文語文e-learning教材“BUNGO-bun GO!”を開発した。本教材のテキストセクションには16の章があり、各章は、テキスト、解説、語彙リスト、クイズで構成されている。テキストページは本文、本文の説明、現代語訳から成っている。参考資料セクションには、品詞別語彙リストと11の文法学習のための一覧表がある。本教材は、教師と学習者のニーズに応え、教室でも自習でも、オンデマンドで容易に使用できる体系的で包括的なプログラムを提供している。本教材を用いた授業の受講者からは概ね肯定的な評価が得られ、本教材利用による学習・教育効果が期待される。

研究成果の学術的意義や社会的意義

文語文学習を希望する日本語学習者は増加傾向にあるが、その学習環境は整っていない。日本国内、国外を問わず、学習者が文語文を学べる教育機関はごく少数である。日本語教師を見ても、文語文教育について十分な知見を持っているケースは稀である。本研究で開発した“BUNGO-bun GO!”は、国内外の学習者が簡単にアクセスし自習できる、また日本語教師が参照し指導に利用できるe-learning教材であり、文語文学習環境を改善する上で効果が期待される。また、多彩なリソースを含み、語彙リストを核として体系的に作られている点で学術的にも意義のある研究成果となっている。

研究成果の概要(英文)：We developed e-learning materials “BUNGO-bun GO!” for non-native learners of classical Japanese. At this time, 16 chapters of materials are online. Each chapter has an original text, the introduction of the text, the vocabulary list of the text and a quiz. Each text page is presented in the following format: [original text]-[text with gloss]-[modern Japanese translation]. In addition, the reference section includes vocabulary lists classified by the parts of speech and 11 grammatical lists. The bungo learning materials offer an on-demand-based, easy to use, systematic and full-scale program to accommodate the needs of instructors and non-Japanese students, both for the classroom and for self-study. Participants of bungo classes using “BUNGO-bun GO!” showed generally positive evaluation on the effectiveness of the e-learning materials, which suggests the availability of “BUNGO-bun GO!” as classical Japanese learning/educational materials.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語学習者 文語文 古典学習 e-learning 教材開発 教授法

1. 研究開始当初の背景

(1) 文語文教育をめぐる状況

日本研究を志す学習者を中心に、文語文に関心を持つ日本語学習者は増加傾向にあるが、その学習環境は整っているとは言い難い。日本に留学している学習者も、大学で文語文入門の授業を受ける機会に恵まれることはほとんどない。海外の状況はさらに深刻で、人件費、教師や教材の不足により、文語文が学べる教育機関はごく少数である。日本語教師について見ても、現代日本語の教育についての知識や経験は豊富でも、文語文教育について十分な知見を持っているケースは稀である。国内外の日本語学習者が簡単にアクセスし自習できる、また日本語教師が参照し指導に取り入れることのできる e-learning 教材の開発と、それを利用した教授法が開発が求められていた。

(2) 先行研究

母語話者向けの古文や漢文の教材は、ウェブ上のものを含め多数存在する。一方、日本語学習者が簡単に利用できる学習ツールは多いとは言えないが、基礎的な文法解説と豊富な練習問題を提供した「古文オンライン」(X. Jie Yang, Kang-Min Yi)、単一の素材(『竹取物語』)を扱ったウェブ教材(Charles Quinn)が既に開発されていた。また、漢字系学習者を主対象とした「日本古典文学」サイト(楊錦昌)も構築されていた。しかし、研究開始当初の時点では、報告者らによる試作版教材(非公開)を除き、漢字系・非漢字系双方の日本語学習者向けの、多彩なリソースと練習問題を含む総合的・体系的な文語文 e-learning 教材は開発されていなかった。

(3) 研究の必要性

母国でも留学先の日本でも文語文の基礎訓練を受ける機会に恵まれない大多数の日本学専攻者にとって、e-learning による文語文独習が可能になることは学習環境の大きな改善につながり、非母語話者による日本研究の質の向上、進展がもたらされる。また、一般の日本語学習者にとっても、文語文を学ぶことは現代日本語の歴史的背景を知り、日本語や日本文化への関心と理解を深め、日本人とのより深いレベルでの交流を実現する上で重要である。

日本語教師の立場から見ても、開発した e-learning 教材と教授法を用いることによって、特に古典や文語文法の教育経験がなくとも、学習者に文語文の基礎を導入し、現代日本語の歴史的背景や古典という形の文化遺産の一端を伝えることが容易かつ効果的に行なえるようになると考えた。

2. 研究の目的

本研究計画では、日本学専攻者を中心とした、文語文学習に関心を持つ、あるいは文語文学習を必要とする中・上級の日本語学習者、および、学習者への文語文教育を行う必要のある日本語教師のために、1) 多彩なリソースを含む体系的な文語文 e-learning 教材を作成し、ウェブ上で広く国内外での利用に供すること、2) 同教材を取り入れた日本語文語文の教授法を開発することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 試作版教材の試用者への調査(2017~2019年度)

2016年度までに佐藤らが開発した試作版 e-learning 教材(5課分)を科研メンバーの担当する中・上級日本語学習者対象の複数の文語文関連授業で試用し、あわせて、日本学専攻の学習者に個人的にも試用してもらった。その上で、教材の試用者を対象に、アンケート、インタビュー、レポート出題の方式で、教材の利点、改善点について調査を行った。

(2) 試作版教材の改訂(2019~2020年度)

上記の調査の結果をふまえて、試作版教材を改訂した。プラットフォームをはじめ教材全体の構成を見直し、テキストおよび参考資料を修訂・増設した。

(3) 改訂版教材の利用可能性の検討(2020年度)

改訂版教材“BUNGO-bun GO!”を科研メンバーの担当する中・上級日本語学習者対象の複数の文語文関連授業で試用し、授業における教材利用の可能性を探究した。

(4) 改訂版教材の試用者への調査(2020年度)

改訂版教材の試用者を対象に、アンケート方式で教材の利点、改善点について調査を行った。

(5) 改訂版教材の仕上げと公開(2020年度)

調査結果をふまえて教材を更に改訂し、公開した。

4. 研究成果

(1) 試作版教材についての調査の結果

① アンケート調査の結果

試作版教材の試用者を対象に2017年度に実施したアンケート調査では、「わかりやすい」、「便利」、「おもしろい」などのプラス評価が多く寄せられた一方で、改善点として、1) 素材の増設・多様化、2) 文法解説の例文作成、3) サイトへのアクセスの改善、4) テストのチェック機能の改善の4点が挙げられた(佐藤・小野ほか2018)。このうち1)と2)は当時既に教材開発の計画に入っており、将来的な改善が見込まれたが、3)と4)はシステム上の問題であり、解決可能な問題かどうかさらに精査する必要があると考えられた。

② インタビュー調査等の結果

そこで、2018年7月から2019年4月にかけて、試作版使用者14名に対するインタビュー調査を実施した。また、2018年度末に、海外の大学における古文の授業の受講者3名が同試作版の使用結果を記した期末レポートを研究資料として入手することができた。これら17名の試用者によるフィードバックを分析し、試作版教材のサイトの作りを検討した結果、試作版のプラットフォームには解決が困難な根本的な問題があり、学習者のニーズに十分に対応できないことが判明した(佐藤・虫明・串田・角南2020)。

(2) 試作版教材の改訂

① 教材改訂の経緯

2019年5月の時点で旧版のサイトの利用をとりやめ、本教材に適合した新たなサイトの構築に着手した。ドメイン(bungobungo.jp)を取得し、ホームページを新設した。教材のタイトルを“BUNGO-bun GO!”とし、新しいシステムを構築した。このようにプラットフォーム自体を再構築するという大幅な改訂が必要となったため、研究期間を1年間延長した。

② 改訂版の改善点

再構築された新版の教材の主な改善点は、1)教材へのアクセス、教材の動作が格段によくなったこと、2)スマートフォンでの利用に支障がなくなったこと、3)旧仮名・新仮名での振り仮名が画面切り替えで見られるようになったこと、4)文法の説明が語彙リストとのリンクのもとに一元化され、本文、本文の説明、現代語訳の相互の対応が格段に見やすくなったこと、そして5)文法説明を一元化したことでどのテキストからでも学習を始められるようになったことである。合わせて、結果的に6)サイトの管理が容易になったことも利点として挙げられる。旧版では利用者アカウントの管理が必要であったが、新版は利用者がサイトを自由に訪れて利用する方式であり、アカウント管理の必要がない。このことはサイトの将来にわたる持続性につながると考えられる(佐藤・虫明・串田・角南2020)。

(3) 改訂版教材の概要

① 素材(テキスト)

改訂版では素材として16編のテキストを収録している。表1に改訂版に収録したテキストのタイトル、出典、成立年代を示す。テキスト選定の方針としては、平明でわかりやすいこと、母語話者の古典教育で定番となっていること、大人が知的関心を持てること、時代・ジャンル・形式などの多様性が確保できることなどを考慮に入れた。

② 構成

本教材はテキストと参考資料の2つのセクションで構成されている。

トップページの「テキスト一覧」をクリックすると、表1の16のテキストのメニューが示され、各テキストのページに入ることができる。テキストページは〈本文〉—〈本文の説明〉—〈現代語訳〉の3段構成になっている。

一方、参考資料のセクションは、語彙リストと各種の一覧表で構成されている。語彙リストでは、テキストに出てくる重要な語彙すべてを五十音順で、また品詞別に分類して掲載した。文語文読解のツールとしては、次の一覧表をPDF形式で掲載している。

- ・旧仮名遣いで書かれた文字の読み方
- ・品詞分類表
- ・動詞活用表
- ・形容詞・形容動詞活用表
- ・助動詞活用表
- ・活用形の用法一覧
- ・助詞一覧
- ・係り結びの法則
- ・敬語一覧
- ・和歌の修辞
- ・主な枕詞と掛詞

表 1. BUNGO-bun GO! 収録テキスト

テキスト名	出典	成立年代
狩の使① おぼろ月	伊勢物語	10 世紀前半
狩の使② 夢うつつ	伊勢物語	10 世紀前半
二十日の夜の月	土佐日記	935 年頃
春はあけぼの	枕草子	10 世紀末～11 世紀初頭
ちごの空寝	宇治拾遺物語	13 世紀前半
吾妻人と都人	徒然草	14 世紀前半
忠度都落① 落人	平家物語 (覚一本)	14 世紀後半
忠度都落② 故郷の花	平家物語 (覚一本)	14 世紀後半
一寸法師① 旅立ち	一寸法師	15～16 世紀
一寸法師② 上京	一寸法師	15～16 世紀
一寸法師③ 姫君	一寸法師	15～16 世紀
一寸法師④ 鬼が島	一寸法師	15～16 世紀
一寸法師⑤ 帰京	一寸法師	15～16 世紀
翻訳苦心談① 翻訳開始	蘭学事始	1815 年
翻訳苦心談② 連城の玉	蘭学事始	1815 年
故郷	故郷	1914 年

③ 機能

テキストページと参考資料ページの間での移動が可能である。テキストページの〈本文の説明〉に挙げられた語彙のうち、語彙リストに採録されている重要語彙については、語彙リストの当該語彙の解説部分にリンクしている。また、語彙リストの意味・用法ごとに挙げられている例文から、テキストページの〈本文の説明〉にある当該文／節に移動して、その前後の文脈を確認することができる。

図 1 は各テキストと語彙リストの関係を示した概念図である。教材の中の各テキストはそれぞれが語彙リストと紐付けられており、語彙リストが各テキストを繋ぐ「ハブ」のような形で機能している。

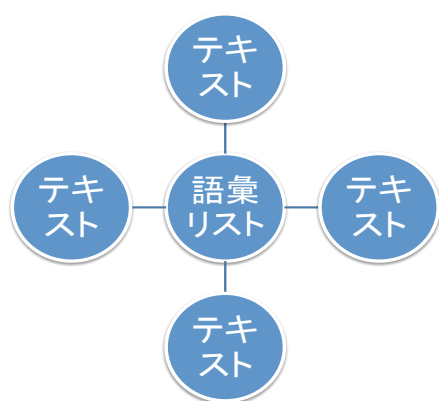


図 1. テキストと語彙リストの関係

また、画面右上の「**ふりがな**」というタブで、テキストの振り仮名表示のモードを、「表示しない」、「旧仮名遣い」、「新仮名遣い」から選ぶことができる。このうち「新仮名遣い」モードによる振り仮名表示の特徴的な点は、必要に応じて、テキストの漢字のみならず、旧仮名遣いで書かれた仮名の上にも新仮名による振り仮名を付けている点である。

(例) やうやう、^{やま}山^わぎは

(4) 改訂版教材の試用と調査の結果

① 改訂版教材の試用

開発した改訂版教材“BUNGO-bun GO!”を国内 2 大学の外国人留学生を対象とする文語文関連の 4 つの授業で試用し、その利用可能性を探究した (佐藤・虫明・角南・金山 2021)。各授業の受講者数は 8 名、9 名、11 名、16 名で、一部重複している。受講者の日本語レベルは中上級～上級である。なお、試用の段階 (2020 年 5 月～7 月) において、テキストの数

は6編であり、テキストごとの解説、クイズも未掲載であった。

各授業における教材の使用方法を大きく分類すれば、次のとおりである。

- 1) 授業でのテキスト読解の予習
- 2) 授業でのテキスト読解の復習
- 3) 授業での文法学習
- 4) 授業での文法学習の応用練習

1)、2)は教材に掲載されているテキストを授業でも取り上げる場合の使用使用方法である。1)では反転授業の形式をとることも可能である。3)は授業で受講者が文法項目を学習する際に教材を使用するということである。教師主導による使用のほか、グループワークでの文法学習に効果的に利用できる。4)は授業でその時点までに学習した文法項目が定着しているかどうかを教材を用いて確認するという利用の仕方である。

② アンケート調査の結果

教材についてのフィードバックを得るために、上記の4つの授業の受講者を対象にアンケート調査を行い、多様な文語文法学習歴を持つ20名の受講者からの回答があった(佐藤・虫明・角南・金山2021)。調査結果の概要は以下のとおりである。

1) 教材全体

「使いやすい」、「わかりやすい」、「助かる」等の感想が多く見られた。サイトのデザインを評価するコメントもあった。一方、テキストや参考資料の増設、朗読音声やクイズの掲載への要望が寄せられた。

2) テキストセクション

〈本文〉—〈本文の説明〉—〈現代語訳〉というテキストページの構成については、「とてもわかりやすい」15名、「まあまあわかりやすい」4名、「少しわかりにくい」1名という結果であった。本文と現代語訳が離れているので対照しにくいという意見があった。振り仮名の新旧モード切り替え機能については、初心者・既習者の双方から多くのポジティブな評価が寄せられた。

3) 参考資料セクション

語彙リストについては、テキストページとのリンクへの肯定的な評価が見られた。一覧表で役に立ったものとして多くの回答者に選択されたのは、「活用形の用法一覧」(18名)、「動詞・形容詞・形容動詞活用表」(17名)、「助動詞活用表」(16名)であった。調査時点でなかったものとして、テキストの解説、語の識別方法などの資料の掲載への要望があった。

(5) “BUNGO-bun GO!” の公開

上記の改訂版教材の試用結果、調査結果をふまえて、教材をさらに修訂、拡充した。具体的には、テキスト本文、本文の説明、現代語訳、参考資料を全体的に見直し、個々のテキストについての解説、Google formsを利用したテキストごとのクイズを付けた。また、テキスト本文の著作権について精査した上で、必要に応じて著作物使用についての許諾を得た。その上で、教材についての説明、教材の基本的な使い方、問い合わせ先の情報をサイトに掲載し、教材へのアクセス制限を外し、公開した(<https://bungobungo.jp>)。

“BUNGO-bun GO!”の公開について、文語文教育関連の研究会で報告した(佐藤2021)。また、報告者が主宰する文語文教育に関する国際的な研究ネットワーク bungonet や、高等教育関連のメーリングリスト asagao を通じて広く国内外の関係者に周知し、利用を呼びかけた。

今後はアンケートで要望があった朗読音声を掲載し、漢文を含む歴史資料にも目を向けつつ、テキストの増設を進めていく計画である。また、bungonet のメンバーと協力しつつ、本教材を利用した文語文教育の方法についてさらに検討を重ねていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 佐藤勢紀子	4. 巻 13
2. 論文標題 非母語話者の文語文学習を支援するオンライン教材 BUNGO-bun project第2回研究会報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐藤勢紀子, 虫明美喜, 小野桂子, 金山泰子	4. 巻 6
2. 論文標題 非母語話者の文語文学習のためのオンライン授業 BUNGO-bun project第1回研究会報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学言語・文化教育センター年報	6. 最初と最後の頁 15-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 佐藤勢紀子, 虫明美喜, 角南北斗, 金山泰子	4. 巻 7
2. 論文標題 e-learning教材"BUNGO-bun GO!"の評価 留学生を対象とする文語文関連授業での試用を通じて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要	6. 最初と最後の頁 401-413
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 佐藤勢紀子, 虫明美喜, 角南北斗	4. 巻
2. 論文標題 e-learning教材"BUNGO-bun GO!"を利用した文語文教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 2020年度日本語教育学会秋季大会予稿集	6. 最初と最後の頁 358
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勢紀子, 虫明美喜, 串田紀代美, 角南北斗	4. 巻 6
2. 論文標題 非母語話者のための日本語文語文e-learning教材の再構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要	6. 最初と最後の頁 153-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勢紀子	4. 巻 5
2. 論文標題 留学生を対象とする文語文入門の授業 「日本文化演習(古文入門)実践報告	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東北大学言語文化教育センター年報	6. 最初と最後の頁 22-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勢紀子	4. 巻 4
2. 論文標題 古典から学ぶ日中の文化的基盤 『源氏物語』の漢籍摂取を例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東北大学言語・文化教育センター年報	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勢紀子, 小野桂子, 虫明美喜	4. 巻 22
2. 論文標題 文語文を学ぶ非母語話者のためのe-learning教材 試作版教材の利用可能性と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育 JAPANESE LANGUAGE EDUCATION IN EUROPE	6. 最初と最後の頁 458-463
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 佐藤勢紀子	4. 巻
2. 論文標題 古典を通じた中日言語・文化交流	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 語言文化的交流与発展 国際學術研討會論文集（吉林出版集團株式有限會社）	6. 最初と最後の頁 121-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤勢紀子	4. 巻
2. 論文標題 从古典文学中學習中日文化的根基（古典から学ぶ中日の文化的基盤）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 中国東北与日本文化交流文化貿易研究（中国商務出版社）	6. 最初と最後の頁 305-314
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 佐藤勢紀子，虫明美喜，角南北斗
2. 発表標題 "BUNGO-bun GO!"で何ができるか 教材公開に向けて
3. 学会等名 BUNGO-bun project 第2回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤勢紀子，虫明美喜，角南北斗
2. 発表標題 e-learning教材"BUNGO-bun GO!"を利用した文語文教育
3. 学会等名 2020年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤勢紀子, 虫明美喜
2. 発表標題 古典を素材としたオンライン演習 東北大学の二つの事例
3. 学会等名 BUNGO-bun project 第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤勢紀子, 虫明美喜, 角南北斗
2. 発表標題 文語文教材「BUNGO-bun GO!」の紹介
3. 学会等名 第12回東京大学文学部日本語教育研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 虫明美喜, 佐藤勢紀子
2. 発表標題 文語文を素材とした国際共修授業 正岡子規『はて知らずの記』を読む
3. 学会等名 第42回国際日本文学研究集会(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤勢紀子, 虫明美喜, 串田紀代美
2. 発表標題 日本語学習者のための文語文e-learning教材 非漢字系学習者による試用結果を中心に
3. 学会等名 第31回日本語教育連絡会議(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤勢紀子・虫明美喜・オリオン クラウタウ・荒武賢一郎
2. 発表標題 日本語非母語話者に対する古文・漢文・くずし字学習支援
3. 学会等名 日本文学協会第72回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤勢紀子・小野桂子・虫明美喜
2. 発表標題 非母語話者のための日本語文語文e-learning教材
3. 学会等名 EAJS2017 Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 佐藤勢紀子・虫明美喜
2. 発表標題 日本語文語文e-learning教材試作版の作成と利用
3. 学会等名 2017年度日本語教育と日本学研究国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	小野 桂子 (ONO KEIKO)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	角南 北斗 (SUNAMI HOKUTO)		
研究協力者	串田 紀代美 (KUSHIDA KIYOMI)		
研究協力者	金山 泰子 (KANAYAMA YASUKO)		
研究協力者	トリーニ アルド (TOLLINI ALDO)		
研究協力者	楊 錦昌 (YANG CHIN CHANG)		
研究協力者	曾根原 理 (SONEHARA SATOSHI)		
研究協力者	荒武 賢一朗 (ARATAKE KENICHIRO)		
研究協力者	クラウタウ オリオン (KLAUTAU ORION)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	重盛 千香子 (SHIGEMORI CHIKAKO)		
研究協力者	金 中 (JIN ZHONG)		
研究協力者	押谷 祐子 (OSHITANI YUKO)		
研究協力者	林 雅子 (HAYASHI MASAKO)		
連携研究者	虫明 美喜 (MUSHIAKE MIKI) (40534714)	宮城教育大学・教育学部・特任准教授 (11302)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 非母語話者への文語文教育を考える 日本研究のリテラシー養成に向けて	開催年 2018年～2018年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
米国	プリンストン大学	アメリカ・カナダ大学連合日本 研究センター	
イタリア	ヴェネツィア大学		
スロベニア	リュブリャナ大学		
中国	西安交通大学		

共同研究相手国	相手方研究機関			
その他の国・地域	輔仁大学			